

# 野口さんとフラダンス

杉並区 内藤 實（本町六丁目出身）

昨年、Jネットの御大である野口さんと晩秋の常陸路を訪ねました。

五年前に、野口さんから「常盤ハワイアンセンターの設立に、僕が参画したのだよ。」と云われてびっくりしました。炭鉱閉山で失業問題も起さずに転身に成功したことで有名だったのです。ハワイアンセンターは、四十一年にオープンしたのですから如何に素早い対応かが御理解頂けると思います。最近になって、わが国最後の太平洋炭鉱が閉山しています。

ハワイアンセンターは現在はスバリソートハワイアンズと名称を改めて入場者数を年々更新しています。私は日立時代に多く利用して愛着があり、忘年会でフラダンスをやらされました。ダンサーの使い古しのスカートを借りました。そのスカートがなかなか思うようには揺れてくれなかったことが思い出されます。

機会あらば、野口さんを常陸にお連れして、私の日立時代の仲間や野口さんを知る常陸炭鉱の人たちも交えて、お話を聞く会をもちたいと考えていました。それがようやく実現したので。

太平洋に面した磯原のホテルに一先ず落ち着きました。ホテルはハワイアンズの経営の「山海館」です。

近くには、野口雨情の生家、横山大観や岡倉天心で有名な五浦の六角堂や美術館もあります。

お茶を飲みながらの挨拶からスタートしたのですが、話は段々と遡り、一歩も外に出ず、夕食となりました。野口さんも皆さんも、お酒よりお話の方で、私だけが盃を片手でした。

その話の中で、先ず私に印象に残ったのは、炭鉱で働いていた娘さんたちを、野

口さんが説得してフラダンスのお稽古をしたという話です。隗より始めよで、野口さんの秘書嬢さんが第一号でした。

当時の副社長が立派で、「やりたいことがあつたらどんどん云つて来い」のタイプだったようです。副社長もハワイに実際に行つて納得されたようです。

その他、戦前に苦勞して合併させた会社を、戦後のGHQの集中排除法の分割命令に抵抗して守り抜いた話、昭和三十年代の黒ダイヤの全盛期、四十年に入りエネルギー転換で石炭から石油に移り一挙に閉山勧告を受けたことなど、話は尽きません。

この間の経緯を知るのには、今は、野口さんしかおられません。

安全防止や文房具の加工工場を誘致したり、系列会社を作つて雇用対策もされました。

今回の訪問で、野口さんが心配されていたことは、それらの会社が今どうなっているかでした。こちらでお聞きするところ、立派な業績をあげているとのこと、野口さんも安心されたようです。



そこで聞いた野口さんの軍隊時代の話、小名浜港建設の話も書きたいのですが、別の機会にします。ただ、その話の中で、軍隊の運命は指揮官次第であると云われました。戦場での体験談は迫力があります。

又、小名浜港建設では、日立に第一号のクレインを発注されたのですが、偶然にも日立の営業課長が高田の出身だったことが後でわかったそうです。先日、その方の消息を調べましたら、一昨年お亡

くならにられました。

ホテルに泊った夜、野口さんの銅像が、スバリゾートハワイアンズを見下ろす高台に立っている夢を見ました。

五年前のJネットふるさとツアーの湯ったり村の露天風呂での野口さんとの出会いに感謝します。

